

嶺北高校の生徒会選挙

担当教師 川渕祐介／生徒会長 本橋佐和



高知県立嶺北高等学校



高知県立嶺北高校

(県北部 本山町)

生徒数94名

県外出身者も在籍 (25名)



「地理院地図」から作成

民主主義の担い手は育っているか？

→選挙・被選挙の経験の充実

生徒会活動は形骸化していないか？

→生徒主体を実現する改革

生徒の声 「校則を変えたい」

→ 条件整備に着手

- ・生徒の**代表**を核とする**自治的な活動**
→その**正統性**の源泉が**生徒会選挙**
- ・教師は**自治的活動**を支え、伴走する
→適切な助言、校内手続きの整備等

- × 立候補者が少ない
- 生徒が**挑戦しよう**と思える仕組みに

- × 「1人1票」は本当に民主的か？
- 生徒の**意思が尊重される**仕組みに

- 教科と特別活動の**往還**

教科（公民科）の見方・考え方

↓ ↑ 相乗効果

特別活動（生徒会、ホームルーム）で実践

例：公共の授業「理想の選挙制度を構想しよう」

重複立候補で挑戦を後押し

&

1人1票ではない投票方式

従来の制度

「一騎討ちで勝ったり負けたりしたくない」

→定員を超えそうなときは立候補を回避する傾向

「執行部の役職が細かく分けられていたので、かえって
学校行事の役割分担が決めづらかった」

→一部の役職が形骸化していた

→生徒会長と体育委員長、どっちが体育祭を仕切る？

現行の制度

「重複立候補ができるから、**挑戦しよう**と思えた」

「会長には**なれなかつたけど**、執行委員として生徒会執行部の活動ができてよかったです」

「順位をつけるから、全候補者をちゃんと見て**意思を反映**できると思った」

従来

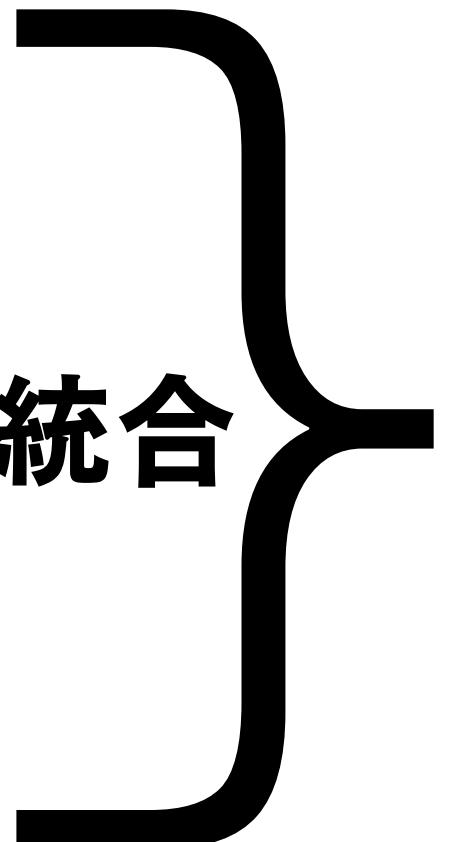
生徒会長 1	
副会長 2	
生徒会書記 1	生徒会会計 1
文化委員長 1	体育委員長 1
保健委員長 1	環境委員長 1
交通委員長 1	図書委員長 1

←役職ごとに少ないイスを争う
「負けたら終わり」の選挙なので、立候補に消極的になりがち
そこで・・・

選挙される役職の見直し

従来

生徒会長 1	
副会長 2	
生徒会書記 1	生徒会会計 1
文化委員長 1	体育委員長 1
保健委員長 1	環境委員長 1
交通委員長 1	図書委員長 1

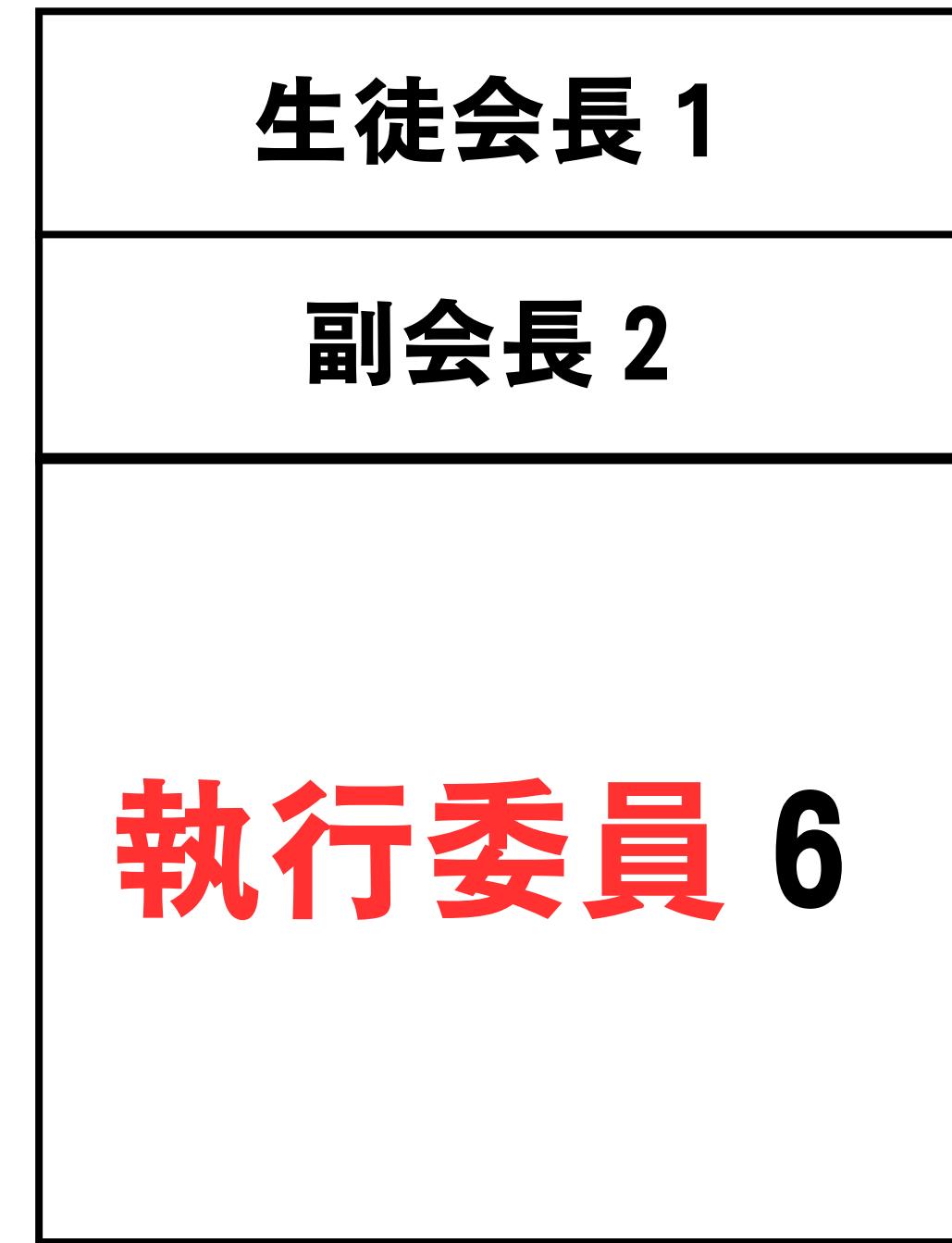


現行

生徒会長 1
副会長 2
執行委員 6 (形骸化を解消、 機動的な役割分担)

生徒会長選・副会長選で落選しても執行委員選で当選するチャンスがある
重複立候補を選択できる
(単独立候補も可)

→制度で挑戦を後押し



重複立候補

1人1票の多数決をやらない理由

候補
武 織田信長
武 豊臣秀吉
武 德川家康
茶 千利休

票割れ

想定されるケース

1人1票の単純多数決では、
3人の武将の間で票が分散する
「票割れ」が生じ、茶人・千利休
が当選する
= 多数決で多数派が敗北

「1人1票」ではない投票方式

- ・リーダーを選ぶ会長選挙・副会長選挙は、順位をつける「ボルダールル」
- ・執行委員選挙は、候補者ごとに当選の是非を判定する「是認投票（認定投票）」

ボルダールの投票例

順位（得点）	候補
1位（4点）	徳川家康
2位（3点）	豊臣秀吉
3位（2点）	織田信長
4位（1点）	千利休

- ・全員に順位をつけ投票（1点差で配点される）
 - ・意思反映の度合い高い
 - ・票の割れに強い
- ↓
- 1人1票より優れた方式

会長選挙の電子投票画面（生徒端末）

会長選挙（定員1）*

ボルダール

	1位（4点）	2位（3点）	3位（2点）	4位（1点）
織田信長	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
豊臣秀吉	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
徳川家康	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
千利休	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

**部外者に非公開かつ
秘密投票に対応**

ボタンを選択するだけなので簡単

集計の手間やミスの心配がない

（紙では困難）

是	候補
<input checked="" type="checkbox"/>	豊臣秀吉（重複）
<input type="checkbox"/>	千利休（重複）
<input type="checkbox"/>	毛利輝元
<input checked="" type="checkbox"/>	伊達政宗
<input checked="" type="checkbox"/>	井伊直虎

- ・ 全ての候補者に対し個別に「当選してほしいか」判定
- ・ 1人1票よりも意思を反映
- ・ 候補者が多数でも投票者の負担が軽い
- ・ 重複立候補者も同時に選挙できる

執行委員選挙の電子投票画面（生徒端末）

執行委員選挙（定員 6）
是認投票。あなたが「当選してほしい」と思う候補に投票（チェック）してください。
投票する数は何人でもかまいません。

豊臣秀吉（重複）
 千利休（重複）
 毛利輝元
 伊達政宗
 井伊直虎
 小早川秀秋
 島津義久
 三好長慶
 尼子晴久

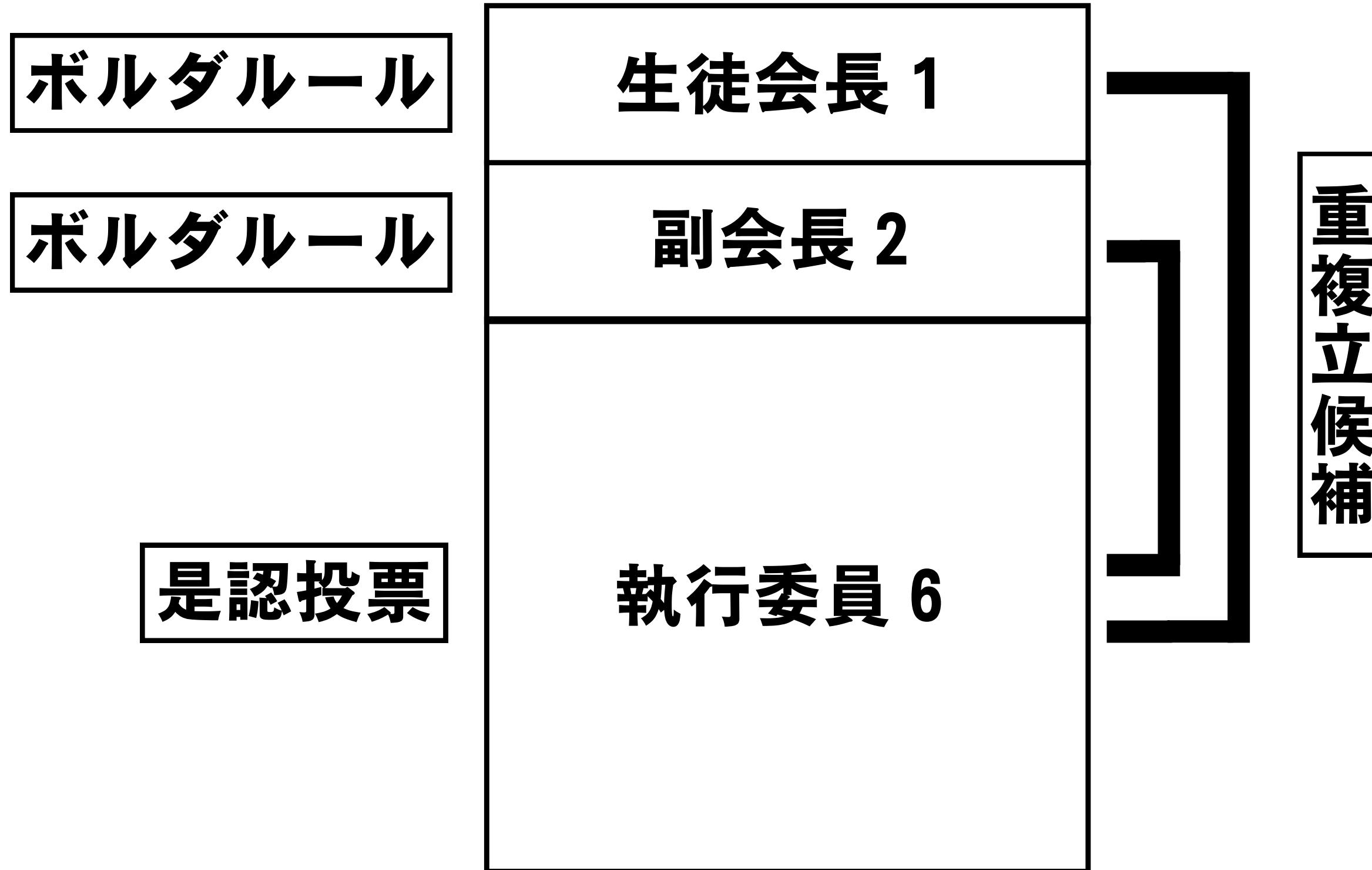
送信 **フォームをクリア**

このフォームは 高知県教育委員会 内部で作成されました。 - [フォームのオーナーに問い合わせる](#)

こちらもボタンを
チェックするだけ
送信で完了

実社会では実現が
難しい電子投票も
学校では活用する
メリット大！

「嶺北方式」選挙の模式図



選挙の活性化に成功

生徒会長選挙の競争倍率

令和 5 年度 1 倍

令和 6 年度 3 倍

令和 7 年度 4 倍

令和 7 年度の選挙全体では

73 人中 14 人が立候補

(1・2 年生の 2 割弱)



選挙制度は**生徒会会則**で規定

(**生徒総会**に改定案を提案→採択)

- 既存の手続きを生かす = **正統性・持続可能性**
- 絶えずルールを見直し、改善する = **暫定解**
- 「地域高2留学」生にも門戸を開く = **包摂性**

生徒会副会長の公約

「万博に合わせて、生徒会の企画として国際交流のイベントを実施し、地域の方々も呼びたい！」



- ① 学校行事の時期の検討に生徒会役員が参画
- ② 校則等検討委員会による校則見直し
- ③ 一般生徒が属する委員会活動の充実
- ④ 「マジョリティー・ジャッジメント（※）」による意思決定の拡充

（※）各候補を絶対評価し、中央値で勝者を決める方式。票の割れや戦略投票に強いという特長がある。

- ・現実社会では難しいことを高校が先取り
→生徒の挑戦が現実社会を変える力に
→教師の後押ししが生徒の挑戦を支える



高知県立嶺北高等学校

全員が生徒会！

高校の挑戦が社会を変える



高知県立嶺北高等学校